

オオサンショウウオの保護

CITES (ワシントン条約): 付属書I (国際希少野生動物植物種)
 IUCN (国際自然保護連合)RDB: 準絶滅危惧種

国の特別天然記念物
 環境省RDB: 絶滅危惧II類
 鳥取県RDB: 絶滅危惧II類
荒神原のオオサンショウウオ生息地:
 鳥取県指定天然記念物

オオサンショウウオの保全

- 基礎資料の収集(分布、生息密度、繁殖状況)
- 生態調査による生活史、減少要因の解明
- モニタリング

・オオサンショウウオは河川生態系の頂点
 ・河川生態系全体を保全することができる



オオサンショウウオが生きて行くために
 必要なことは??

人間: 衣・食・住 が不可欠

オオサンショウウオ: 殖・食・住
 (繁殖巣穴・食物・住みか)

殖・食・住が担保されなければ
 個体群を維持できない
 ↓
 絶滅

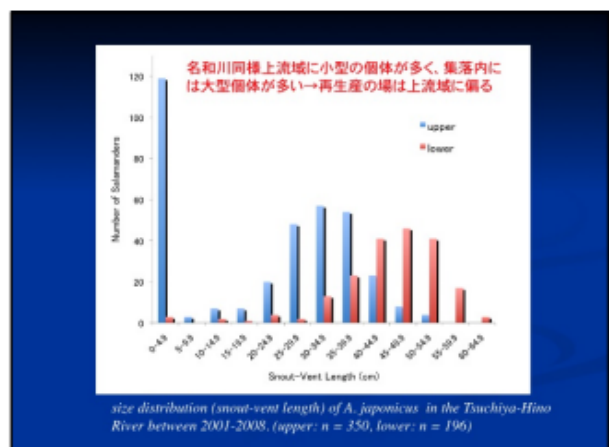
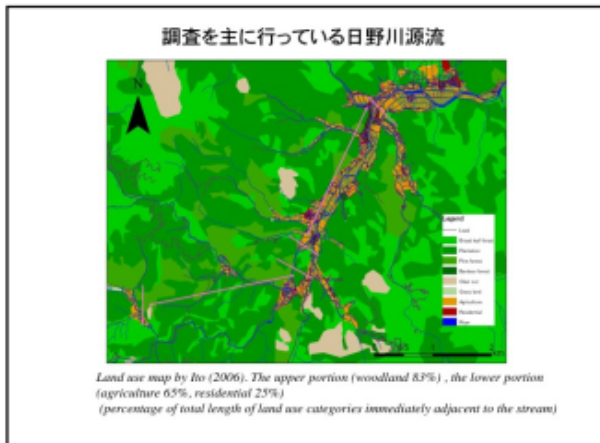
保全を進めていくには

オオサンショウウオの生息の現状を調査するとともに
 生態調査を行い、
 殖・食・住に必要な条件を明らかにすること
 ↓
 効果的に保全を行うためには必要不可欠
 ↓
 研究者の仕事

地域住民への普及啓発や河川管理する行政との連携が重要

特別天然記念物オオサンショウウオについて

(参考資料1)



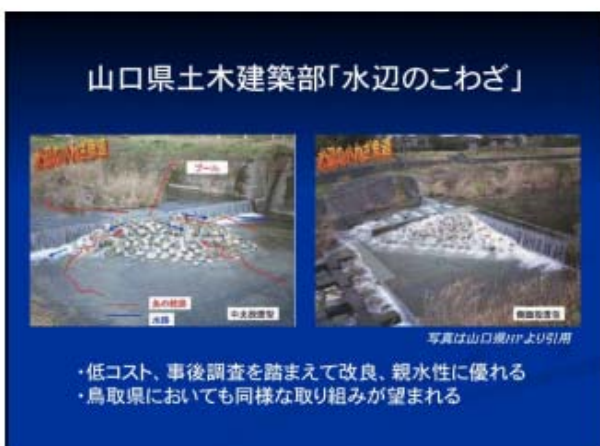
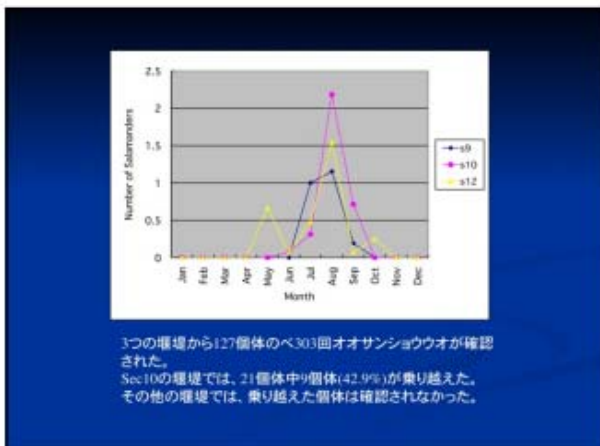
特別天然記念物オオサンショウウオについて

(参考資料1)



特別天然記念物オオサンショウウオについて

(参考資料1)



特別天然記念物オオサンショウウオについて

(参考資料1)



オオサンショウウオの保全上の問題点

- ・集落付近では、幼生、幼体がきわめて少なく、世代の更新がうまくいっていない可能性がある。
- ・産卵巣穴に限られており、かつ、消失しやすい。
- ・産卵場所を探して移動する必要があるが、堰堤によって生息地が分断され、移動が阻害されていると考えられる。
- ・集落付近では、上流域ではみられない残飯食がみられ、ビニールなど死亡要因となりうるものまで食べている。
- ・行政の行っている保護対策は工事の時に限られ必要最小限。個体群の回復を目的とした対策はない。個体群、水系レベルで保護管理する必要がある。

特別天然記念物オオサンショウウオについて

(参考資料1)

解決策(案)

- ・巣穴のできる環境(自然護岸)を多く残すこと。人工巣穴を設置しただけでは、効果は不明。事後の確認が必要。(行政)
- ・移動を阻害する堰堤には移動用のスロープ(魚道)を設ける、または、除去する。(行政)
- ・よりよい人工巣穴やスロープの開発 (企業・研究者)
- ・川にゴミを捨てないようにする。川の美化。(住民)
- ・生活史の解明。どのような環境が必要か? (研究者)
- ・個体管理とモニタリング調査 (行政・研究者・住民)

オオサンショウウオを含む河川生態系・河川環境の保全を進めるには「産学官民」の相互の理解と協力が必要!

オオサンショウウオを含めた自然環境の活用事例

情報を発信することで国内外の研究者・メディアも日野川へ

米国の研究者 英国の研究者

TBS 情熱大陸

テレビ取材は毎年あり、鳥取の環境の素晴らしさを広く知ってもらうことに貢献している!?

「筑紫くろ福田君新聞」より転載 <http://www.fukuyakibin.com>

日本オオサンショウウオの会 日南大会

約150人が全国から参加

「筑紫くろ福田君新聞」より転載 <http://www.fukuyakibin.com>

地域ぐるみで保護活動を行うことで小学校等地域内外の環境教育の場としても活用されている

住民が中心になって人工産卵巣穴を設置